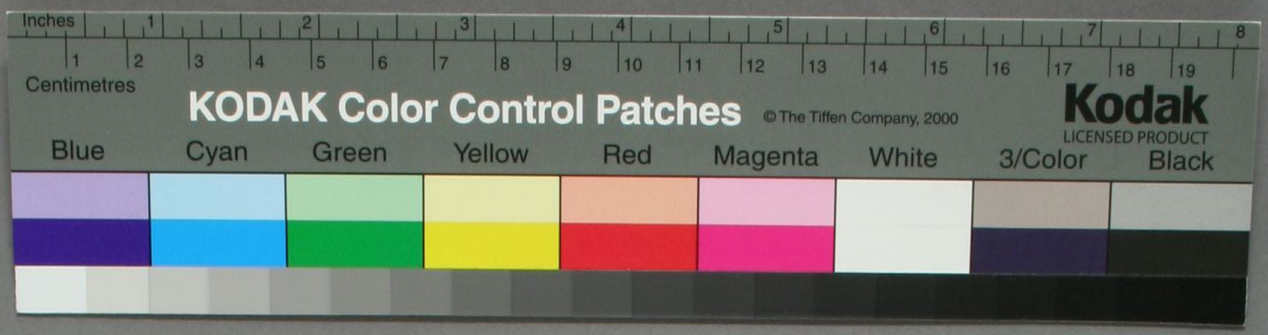


平治物語 上

リ 5
2140
1

Y5
2140
1-2

Y 伊5
2.140
1

門 伊
號 2140
巻 1

平治物語巻第一目録

のぶよりまさんせいふかひのる　一丁目
信頼さんせいとかつ[illegible]さるし事　五丁目
三条殿へ[illegible]付信西[illegible]
信西の子息闕官付除目のす　并悪源太上ぬる　八丁
さんせい出家のゆへ付南都おち同さにのる　十一
信西のゆへ[illegible]付大路[illegible]　十二丁
廣隆朝の事　[illegible]
出[illegible]紀列へ[illegible]　十[illegible]
光頼[illegible]付許[illegible]　并清盛[illegible]　十八丁
信西の子息[illegible]
院の御所に[illegible]
[illegible]
源氏[illegible]

○のがれ[illegible]の事

[illegible]

宗文皇帝はひげをあてゝ功臣にはたらき血をながさしめてしかれども[illegible]

[illegible]

[illegible]

づきより平家の武威をもてかんぬをさびんとおもひたるが信威はだざい
大威たるとは四あまたゆへにそこをかそうとしたことをうらうとあるほ
はれがなもどうい世とおもひとどまるたちのかゝ義朝をそ保元の礼より
このかた平家に見えたりてやれかくれぞんぶるものとおもひまいりすて
祿ぐるよ四ぎをぞかゝりはるつゝまだんぐんのさびゆへ信頼かくて
ひはぶ山をも居をものぞゝ左衛門をもやされんは天子よりも思ひ
とのみかゝやうに此意よりけるまゆでうすにとりて大けにしいかゝ
たるをもすりて一方にてあやさんとぞのみひたるものゝあるを尚帝
の此ぞいせに新たなぐんつゝむひをしてひ井れ此門者の中納言家
廟の二男あらごの井ねるりちか朝臣は君の此きゝよくたりの
ゐりとそくへ此めのとお尚これにもまれたり井にも此お尚を
母方のとらなりしに秘方をたりのおね信らしをむとゆゑことをうく
ぞちぎてまたるゝやうにしてめ先づしてひまをうゝにまたる祿ゆ平
治元年十二月皆大威信威あるくなんまことそしゆゑ屋のたけ
しけりねしてくまのさんぱいのとおそのひまをもて信頼は義

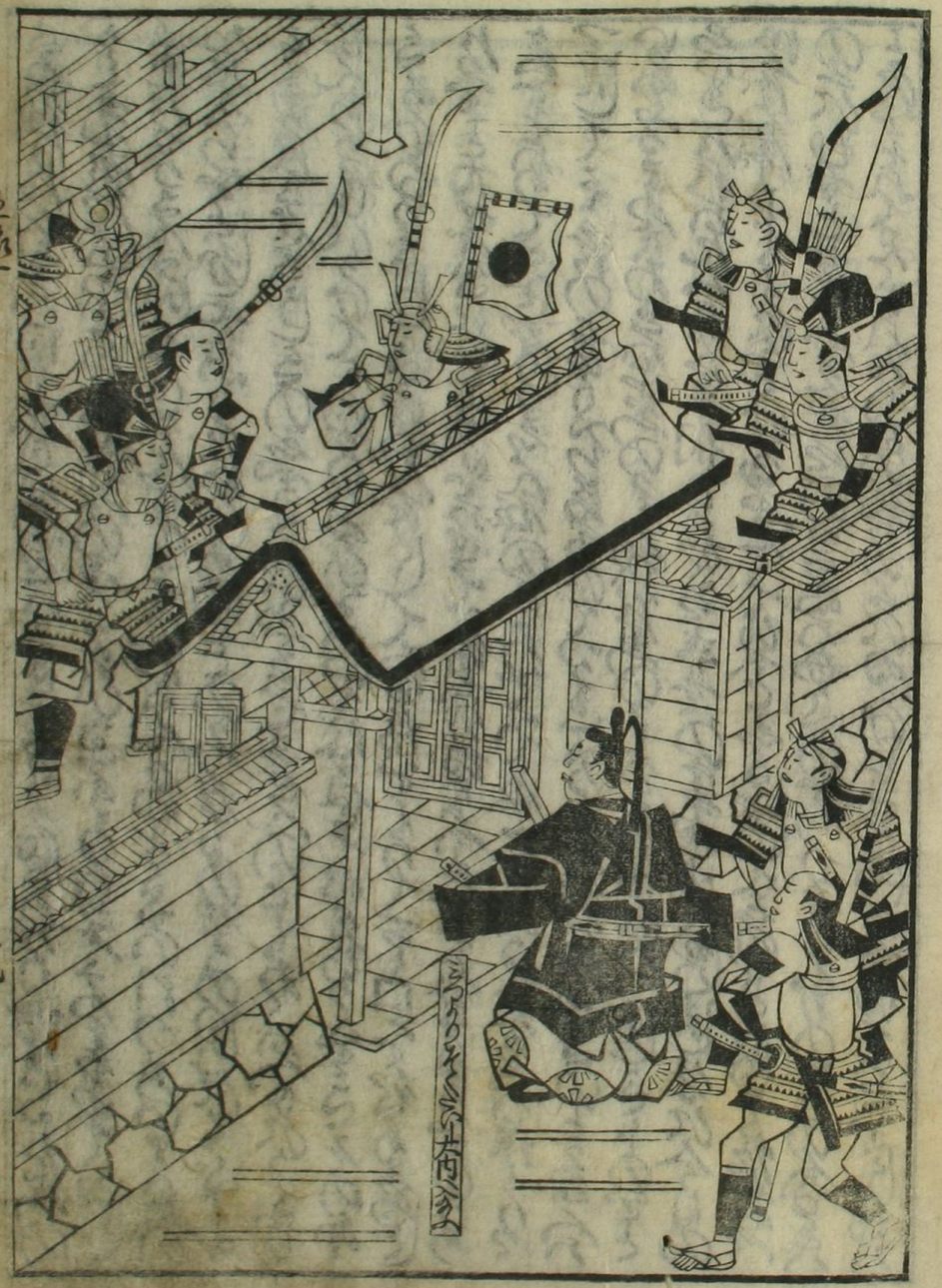
朝をまゐさ信頼さいの一位のまゝるにあて天下の大ゆるをゆゆれゆゑ
子をゆゑ方和かいはしねまれにかしあて信頼がたまるのゆゑをも外ゆゑ
ぎ祿のあごこのひがをのさいの内にて天下にあそへ四をしてふきさせをもこ
ぐるへきわさひのもとのあり君をさいはさせるのぞもあはまへ此い
はしめをかしにとよ此へん始終はおんん大威信威をかれがあんとかて源氏の
人をぞかしめんとするあとこそはまゝよりやうにまゝるへきあをと語れは
義朝やされたるは太孫五百七代さうせんのけいをもて人にれ合あせを
がくをいはしめぶるやの術をつゝて凶徒をしりぞけゆゑるにあるる保元
此間家のさをがくあくてきることをもてしんるいをけうせるまこと義朝
一人にまゝりれ此へば信威も内にさぞちくいゆんこれらはとよりかくご
のまへにて仍べわかがらおどろくぎゆてゆゑひたりやうに頼ゆよりて
びんぎゆゑ尚家のふらんをもてゆゑしとそなゆへとやされそれは
信頼およりあびていりやづらのさりのたりしこうけ丸出りつゝかつこひ
のちゞめこそひるまてり義朝つゝあんでうけそて出るまたるに白くまて
さうそいるうち二更かくくらをのそ門立てり夜ゆんのとるまでいたれ

○信濃の善光寺

ひごびとそのくんすひのでうまでにごそんのうち
[illegible]とをめらまこれがあるかれたそれ仏教をも
[illegible]ものしまをもてそれをうけたるかたのまを
てかりのそうもをもしてそうろうくとそれ
づのてそとをうりろうくんをかたくんをもとうくとそ
いのひろそうてうふおざおらうまず
あもおまのあくごうとのひかがくうまれ
やまとのの[illegible]むうのうそれくんをうるうそいい
らうそうひのひごうりふうり[illegible]今ふおいとこれ
あのでうまてあまてもしまざうまるこれもとこあ
らまこうあのそうのひうのやまうまうまう

[illegible]

すぐにをあそばしけるにてうしのめが出用かてしんが[illegible]どくに出てうがの信[illegible]
なはしてあそばしけれバてうしをりさ[illegible]やうさひ又てうしのめをこふて秋[illegible]
のとくにをりてうがなもに又信よりなれば[illegible]
[illegible]の信こゝの同の信よりなられるふ[illegible]を這ひにとゞこと云よりの信[illegible]
[illegible]をさられがさてそうしてうしのめふ来をさきてよりこのさ第二来
四とよりとこそ見てひとそうしけれバ[illegible]
けるされバ[illegible]ふとりあやとしんあれ
とふこゝ思へまのちやうかてもすこの寶女よつてきりけると人の愛
かも見てこうけりけりしけり人の今こびとどくしんよりけるを保元ろせん
ようりの[illegible]の[illegible]の[illegible]大和の[illegible]
[illegible]を信西の中[illegible]を立てかりをしこ[illegible]
[illegible]が中二年あつて平治元年より我とうこうかれしを
[illegible]
[illegible]今日ハ我身のせゝ[illegible]
[illegible]



ゆくりまと云てうまうす
三クとのせるよりぬこ
ひらのさつよりう

[illegible]

○院の御所にはせる人の事

[illegible]

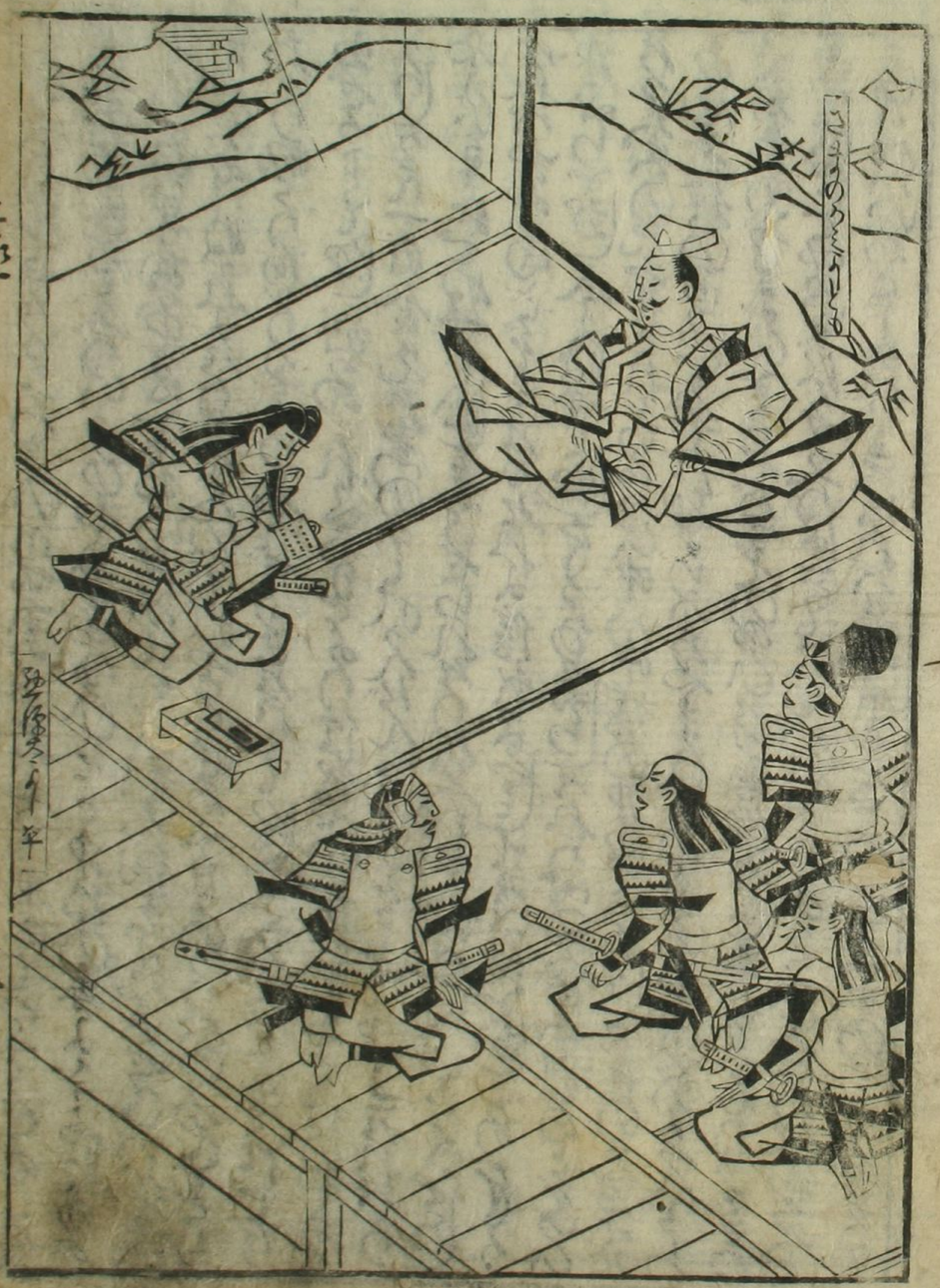
[illegible]

てはさしつひ入事せて佐渡せあるどうひしくもそ言事せあひ
ひ保元よ言とく院のへせあひしをぶ宮んだがむが坊ひ事せて
さまそのはんぎしそなりさ言さく院ハ名ねゆ一のはよ上皇ハ守に
はむ方ハ中文のなかてかりませばかし内ハ院のはとるれなさばりいつき
中さ坊あひいさかのはつかもとてせあるはうんの程そめぞくられと
人ふ事はれ

○うまこ六波羅訪華代事

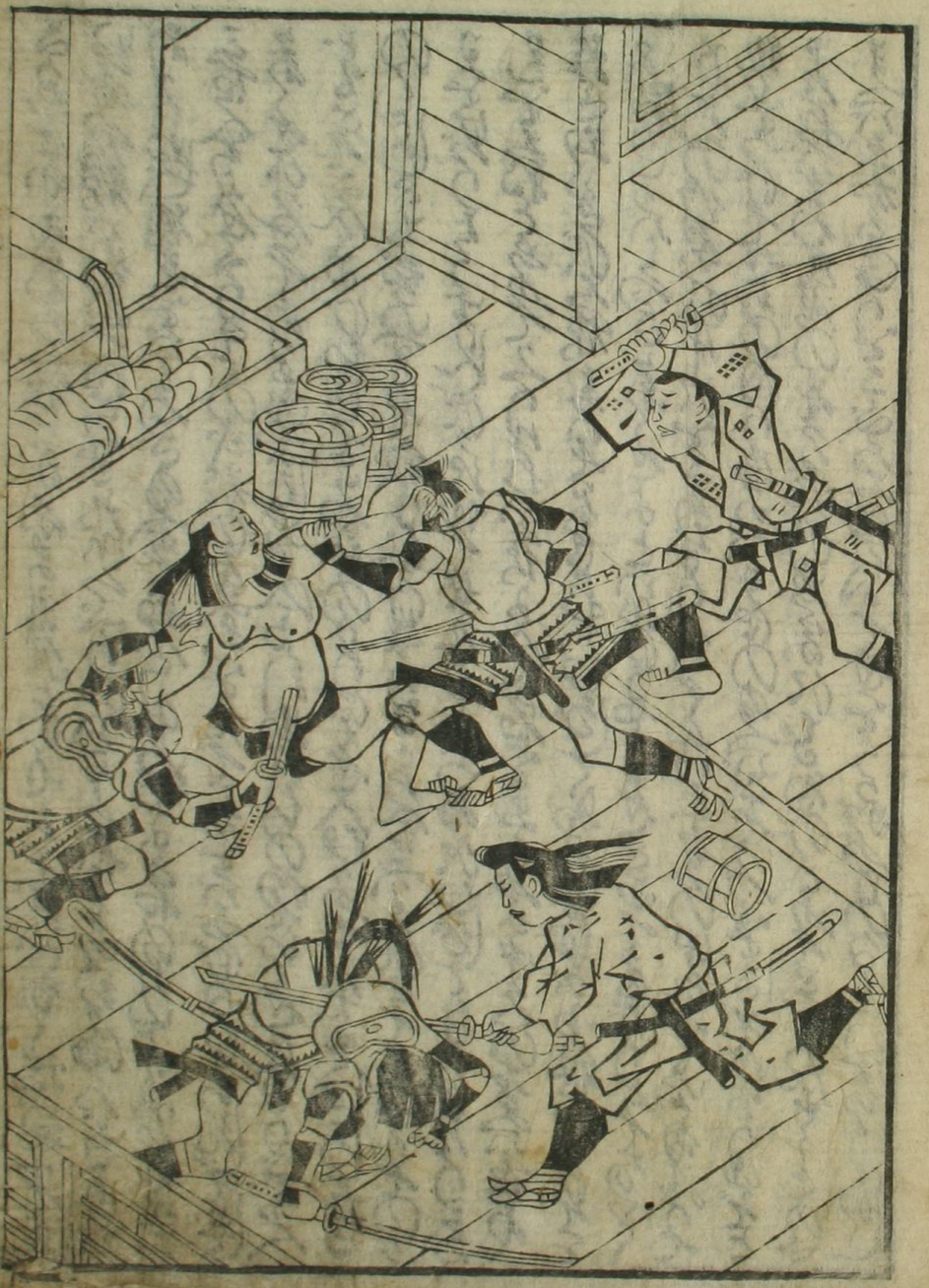
去程にうまこ六水のぢんは此車をこそ女ぞうのぎうをあてはがつ女を過
くはたく掛たるを見んとて内侍所のはりもあるまで出さうなを
かまぎうの末あやめをそさぶ事せるを傍見の源中納言もうなが
ほふ中合て坊門のつ内ひは宿所へ(ぞうの)をり中文を白さ一の車に
ぞ召れるお面これを新大納言つ見ふるをしかしはさしてはぶそう
ねさ門の坊をかしをれば此門ハ今子平山かさあさうまあていかれ車
ぞとかせばかお面上いうなぞうちの出させあはてこれさがみぞおのさ
さいはほしまとのは(たうし)と程あはせこてうのもすかてこそうれわげ

さいまうふりへて見をれば二条の流はぎいぬのうがれ年をれはゆゆふう
まうがんまとのりしくおしまれは花ぶかれ花ハ召れうはとふやをまま
よかまの女ぞうはんさせあ仲文ハまいまれいかで見とがあをんゆへなく
をしまくせ召り清威のいるとう保芳武者がけつかまふ家ぶどのうち巻
のうへは中ぞりをさそぎしまふるりたちのさえさぎやそうしかのうち巻
れとよりしかの者うぼくて此車をはりと東門をかつまとかりまとかど
こそおまこ此門をさぶがとくれれ幸るりは恵のとけさげりこのる
よりりけちのもつ(ひり)三百よりにて右みやしかのさいんは得うけ
をの此車の前はを西ぎしおそうへそ入をりはれとゆるくりをはて
はれば平家のへくいさしよりぶつりぎうはやがて義人右お弁るりより
をりて右ちをゆ言者とあるれうり勅敵なりしとぶんさをがつはだ
とせ無れなと重ちまはれば大殿関白殿右殿右衛門右衛門ニ下
公殿上へ我もしと乗りまはれりぎいりへとぼさしはせ乗り無ばはしを
ゆてうれさはおといそぶ乗りはれば右家の門前ハ馬車の立所を
なくせさ合くるふれ前の事新ふまうかる無おほしはりそうんの



のぶなのをしめひげさりとの君力をもたれ十二さいゝるそめ相の色をひきげ
ごとのちゝもてくりけるゝるゝ相見てづく此日ゝるゝをとして先も一所にゝ
立てゝりけうぶざねひげ切ハ源氏ちゝ代のものの皇の中にとふひさう
のさうかゝるゝ事なのおさゝ名を源ゝさぞやゝ名ゝ二家の河ゐんより
まつてせよいらんぜんと仰をうふりのひてさぞとまつくをなど神よ
すべたんざんは入いまゝるさそこそ源ゝかうぶざねとゝ有まゝ名まゝ
むかゝ後ハ天照太神八まん大井といつけまゝせ名太の神にハやちの
花のかゝるまゝるさゝ面をねどせるゝるゝさそひげ切とやハ八まんのさゞ
とゝもひとうとせあくまゝ河ゐるゝふいけどりの老十八のぞひを切ふゝか
ひけてもふさまゝ名ゝいけ切とゝるゝづけさりねゝ名の住人文孫とゝ
うちゝ作ゝ者よりちゝくふれ傳せゝかゝ源ゝさそくゝあゝぶさ名
かれ大和ゝさゝりゝあひゝるゝハゝふ源氏のたゝとゝあゝぶさ遠るゝ三家
のとけ文はさものゝをゝまゝ入て平ゝあやもやひゝ小人にさゝをせち
まゝよりまゝさゝへをひんとやゝされゝるゝなゝんぞ遠ゝりまゝハゝの
ゝかれてゝてうゝ事のいさをひゝ話のゝかゝいさといぐもよくゝあゝ

ふゝ君たゝゝのとをやゝぶさ比ハ平治元年十二月廿七日ゝの利神のとゝ
ゝ所のゝ君さゝのこり庭ニハ雪を殺がとゝかゝ物のひゝり思ひてゝ
物のゞのゝかゝやゝさゝくゝ見てこゝにゆゝかぞ見てゝりゝるすべて天下がゝ
天ちゝ天ぐんハ光を見てゝ目ゝ我てゝにゝとゝてハ遠さものゝふゝまゝるべ
こさぶ遠ハまゝ人ゝ光ゝさりゝ思ゝるゝにゝまゝ光ゝとゝ可とゝ思ひけりて
見てゝれゝハ遠ゝ物討ぶやとゝ思ハまゝ遠ゝ天ちゝのゝかゝのゝまゝ名ゝ
ちゝまゝハ思ひさゞまりゝあひゝりゝ物のあひゝるゝハ今家のゝせんにも打
まけゝかゝ朱ゝあゝせゝりゝかゝのゝ家人をゝはゝあゝてかゝりてゝやこふ
せあゝり平氏のゝ家ハをゝかゝぶさんゝのゝ家ハのゝ名ゝさゝまゝ遠
かゝひ今ゝふ保元ゝを月くのゝ中大をゝかゝ頃をのゝあゝずまゝさ
文のゝびをゝ遠ゝ人ゝるゝハ思ゝまゝこれやうんのさゝあゝんと思ゝまゝれゝ
がゝ君おもゝに行ゝまゝるゝりぬとゝ遠ゝのゝりてゝそゝ君とゝるゝりなんことを
遠ゝてつゝにゝかゝぶゝりせゝまゝるゝりされゝがゝり正平ゝ所にゝ
まゝて法おもゝりわゝてゝそゝけ出ゝるゝハ遠さゝ名をゝみゝかゝとの
兵庫のゝことよゝおゝかゝのひゝのゝるゝいせ平氏ゝつきゝあゝ今のゝか



○ うりともあやうくおぼれんとしけるを
そうねんこの池のかたへ海こえそいにけれ十二月廿日の夜ふけてそのかたへ
きてそのかれいでこの海のかたへ人をやりてみせしむるにかの池のかたへ
きのうへにふかき海のかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
こりてあれはかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
なりてやうやうまもなくそこにかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
ありのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
まきうつかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
かたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
あるかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
そのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
うらのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
やうのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
かたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
ゆうのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ

らがみのうえにそそぎたふじのやまにそそぐこうりうのごとくにて
すべのかたへまふのとこふうれてつめたきことこほりのごとくにて
なかをふかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
るげにそのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
すべてかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
ひこそこほりたるたびぶかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
びをそうかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
ひとのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
みをぐなうかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
つひにひうのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
だんこうのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ
とうひこうかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへのかたへ

ぜんのゆゑに入まのゝせてゆゑふもてなしをりけれどもまゝごろ[illegible]
ゑにぐとそいそだいでのゆゑひげもとバ大根がもとふわづけまたくらゆふ

平治巻之二終